

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ギターヴォーカル実技 I		授業形態/必・選	実習	必修
	ギターヴォーカル実技			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ギターヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経歴15年 自身のバンドでギター・ヴォーカルとして活動後、サポートギタリストとして、ライブ、レコーディング、メジャーアーティストへの演奏指導、MVへの出演、音楽誌の新機材検証企画でのレコーディングなど様々な活動を展開。					
授業概要						
ギターを弾きながら歌えるようになるためのレッスン。アンサンブルやギタボギグの課題曲の練習、リズムトレーニングも並行して進める。						
到達目標						
ギターヴォーカルとして必要な基本テクニックの習得。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なコードフォームの習得。 ・ダイアトニック・コードの理解と習得。 ・クリックに合わせ、基本的なコードストロークの練習を1年を通して行う。(8ビート、16ビート、シャッフル) 					
【前期】 6～11回目	<ul style="list-style-type: none"> ・ギターを弾きながら歌う練習。 ・ギタボギグに向けた課題曲のレッスン。 ・課題曲に必要なテクニックの習得。 					
【前期】 12～16回目	<ul style="list-style-type: none"> ・シンコペーションの理解と習得。 ・アンサンブルフェスティバルに向けた課題曲のレッスン。 ・課題曲に必要なテクニックの習得。 					
【前期】 17～18回目	<ul style="list-style-type: none"> ・コード・カッティングを行いながら歌う練習。 ・ブリッジ・ミュートでのバックイングの習得。 					
【前期】 20回目	・前期試験					
【後期】 21～24回目	<ul style="list-style-type: none"> ・アルペジオを弾きながら歌う練習。 ・ギタボギグに向けた課題曲のレッスン。 ・課題曲に必要なテクニックの習得。 					
【後期】 25～30回目	<ul style="list-style-type: none"> ・テンションコード(ナチュラル、オルタード)の理解と習得。 ・頻出するコード進行とスケールの選び方。 					
【後期】 31～35回目	<ul style="list-style-type: none"> ・アンサンブルフェスティバルに向けた課題曲のレッスン。 ・課題曲に必要なテクニックの習得。 					
【後期】 36回目	・後期試験					
【後期】 37～40回目	・一年間の復習					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	ギターも歌もリズムが一番大切です。そのためリズム感を養う練習が中心になります。また、コードやスケールを学ぶことで作曲やアレンジの幅も広がります。ギターヴォーカルの基礎を身につけ、表現力を高めていきましょう。					
使用教科書	担当講師によるオリジナル教材					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ヴォーカル実技 I-A		授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォイストレーニング I			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経歴21年。様々なステージ、メディア出演を経験、有名アーティストの出演CMで1,000人の歌唱指導を担当。現在の指導対象はミュージシャンのみならず、俳優、映像、舞台など幅広い指導経験を持つ。					
授業概要						
楽器である身体を鍛える為の筋力トレーニング、体幹トレーニングを行い、更に歌唱時に必要な身体の使い方を学ぶ。シンプルなスケールを使ったメソッドを繰り返し行う。						
到達目標						
各カテゴリーに対して正しい知識を理解すると共に、身体全体を鍛えると共に発声に必要な身体の部位を鍛え、正しく使えることを目的とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	「Lifestyle、ストレッチ、姿勢、呼吸」ヴォーカリストに必要な生活習慣のレクチャー、歌う前に身体の緊張を解す準備運動、基本姿勢、発声に必要な横隔膜及び胸郭の使い方を学ぶ。					
【前期】 5～8回目	「腹式」発声時に腹圧をどのように設定し、それをどの状況でコントロールするのかを、スケール(音階)を使用したメソッドで繰り返しトレーニングする。					
【前期】 9～12回目	「滑舌」言葉を発する時の唇、舌、顔の筋肉の基本的な使い方を学ぶと同時に、それぞれの部位を正確に動かせるように繰り返しメソッドを行うことで鍛えていく。また、強弱や明暗などのコントロールを応用して行えるようにする。					
【前期】 13～16回目	「共鳴」音量ではなく「響き」を作る為に必要な副鼻腔、口腔、咽頭の基本的な使い方を学ぶ。更に、様々なトーン(柔らかい、堅いなど)を使い分けられるようにそのコントロール方法も身に付ける。					
【前期】 17～19回目	「高音域①」高音域を発声するのに必要な声帯及びその周囲の筋肉の基本的な使い方を学び、対してNGパターンも併せて学ぶ。また、ただ発声出来ているだけではなく、必要な共鳴を備え、その度合い(太い、柔らかいなど)をコントロール出来るように様々なメソッドを繰り返し行う。					
【前期】 20回目	前期試験					
【後期】 21～24回目	「高音域②」上の「高音域①」を継続					
【後期】 25～28回目	「支え」声を真っ直ぐに伸ばす時や音程が上がる時に、その声の共鳴を安定したものにする身体の使い方を、様々なスケールトレーニングを繰り返し行うことにより学ぶ。					
【後期】 29～32回目	「トーンコントロール」歌詞の内容や曲調に対して必要な声のトーンにはどのようなものがあるかを知り、それらを実際に使える技術を身に付ける。更にどのトーンをどういう場合に使うかのセンスも学ぶ。					
【後期】 33～35回目	「総合①」今まで学んだこと全ての知識、メソッドを復習し、更に完成度を高める。					
【後期】 36回目	後期試験					
【後期】 37～39回目	「総合②」今まで学んだこと全ての知識、メソッドを復習し、更に完成度を高めることを継続する。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
【後期】 37～40回目	歌唱時の基本的な身体の使い方を身に付けることは、何よりも大切。間違った発声法は喉を傷めるだけでなく、聴衆に嫌悪感を感じさせます。そういったものを「個性」と正当化しないことです。					
使用教科書	全コース共通の教科書を使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	総合音楽理論 I		授業形態/必・選	講義	必修
	理論			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ギター/ベース/ドラム/ギターヴォーカル					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験33年 ギター演奏を中心に多数のレコーディングやアーティストサポート、アーティストへの楽曲提供、劇伴、作編曲、楽曲プログラミング、教則本の執筆やトレーナーなど活動は、多岐に渡る。					
授業概要						
音楽に関する基礎的な音楽理論(ペンソクセオリー)を学び音楽に対する基礎的な知識を身に付け、楽曲制作や演奏する楽曲の理解や実演奏へのフィードバックさせる為の授業内容になっています。						
到達目標						
アーティスト、演奏家にとって大事な共通言語とされる基礎的な音楽理論の理解を深め自己の演奏に反映させ修得出来る事を目指す。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	基礎知識(1) ・音楽記号・拍子記号・音名・音符・休符・音の高さ ・調号、Keyに付いて、#系とb系(1)・Tone Interval(1)1度、3度、5度、7度音程(完全、長、短、減)					
【前期】 6～10回目	基礎知識(2) ・調号、Keyに付いて、#系とb系(2)・Tone Interval(2)1度、3度、5度、7度音程(完全、長、短、減) ・Degree(度数)表記(1) I - II - III - IV - V - VI - VII・サークルオブフィフス(五度圏)・コードネームの表記方法(1)					
【前期】 11～15回目	基礎知識(3) ・調号、Keyに付いて、#系 b系(3)・Tone Interval(3)1度、2度、3度、4度、5度、6度、7度音程(完全、長、短、減) ・Degree(度数)表記(2) I - II - III - IV - V - VI - VII・Major Scale上に来る三声、四声和音・コードネームの表記方法(2)					
【前期】 16～22回目 (前期試験)	Diminished(減5、減7)音程、Augment(増5)音程から出来る和声とは、 / Chord FunctionからDominant Motion / Secondary Dominant ・Diminished Chord、Augment Triad Chord・ダブルフラット、ダブルシャープ ・Chord Function(1)・Dominant Motion(1)・導音、トライトーンとは、何か、・Secondary Dominant(1)二次的なDominantとは、					
【後期】 23～25回目	ケーデンスに付いて、 ・ケーデンスのパターン Tonic Sub Dominat Dominantの進行パターン ・Dominant Motion (2)・Secondary Dominant(2)Secondary Dominantを使ってみる					
【後期】 26～30回目	転調のパターン / コードプログレッション ・平行調、同主調、近親調、遠隔調・各調へのコードプログレッションなど ・Dominant Motion(3)・Secondary Dominant(3)					
【後期】 31～35回目	Tonic minor Scaleとは(1) ・Tonic minor3種(Natural, Harmonic, Melodic) ・Natural, Harmonicminor Scale上に構築されるダイアトニックコードとDegree(度数)					
【後期】 36～40回目 (後期試験)	Tonic minor Scaleとは(2) ・Natural minor, Harmonic minor, Melodic minor Scale上に構築されるダイアトニックコードとDegree(度数) ・Natural, Harmonic, Melodic上に構築されるダイアトニックコードダイアトニックコードとDegree(度数) / コードプログレッション					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	不変的な基礎音楽理論を理解する事で、楽曲に対しての構造や造詣を深める事が出来ますので、是非、修得して自己の音楽活動、楽曲構築、アレンジへのフィードバックが出来る嬉しく思います。					
使用教科書	必要に応じ適宜PDFにて配布、タブレット端末、五線紙(五線紙ノート)、筆記用具を持参する事。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	エレキギター実技 I-A	授業形態/必・選	実習	必修
	ギターベーシックI		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ギターヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当				
担当講師 実務経歴	実務経験36年 自身の所属するバンドで活動中、海外のメジャーレーベルよりCDリリースおよびソロアルバムを発表。その後、現在に至るまでスタジオワークやサポートギタリストとして活躍中。				
授業概要					
クリックを使用し、基本的なスケールを中心に様々なジャンルのバックイングやフレーズを学ぶ					
到達目標					
ギターヴォーカルとして必要なギターの基礎テクニックを習得					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	・クロマチックトレーニング ・8ビートの基礎的なバックイング(パワーコード、ブリッジミュートなど)				
【前期】 6～10回目	・メジャースケールスケールの解説、ポジション、練習法 ・ハンマリング、プリング				
【前期】 11～15回目	・ナチュラルマイナースケール ・ビブラート、チョーキング(半音・1音・クォーター)				
【前期】 16～19回目	・マイナーペンタトニックスケールの解説、ポジション、練習法 ・8ビートのカッティング				
【前期】 20～21回目	・前期の復習 ・前期試験に向けての課題				
【前期】 22回目	前期試験				
【前期】 23～26回目	3連符のバックイング、フレーズ ・3連符のスケール練習 ・ブルースで使われる3連符のフレーズなど ・コード、単音の3連符のカッティングなど				
【後期】 27～31回目	メジャーペンタトニックスケールの解説、ポジション、練習法 シャッフルのバックイング、フレーズ ・スリーコードでの5度クリシェ、コード、ベースラインのバックイングなど				
【後期】 32～36回目	16ビートのバックイング、フレーズ ・16分のスケール練習 ・コード、単音の16ビートのカッティングなど				
【後期】 37回目	・後期の復習 ・後期試験に向けての課題				
【後期】 38回目	後期試験				
【後期】 39回目	1年間の復習 到達度、理解度の確認				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	自分の好きなジャンルの音楽は講師が黙っていても上手になります。出来るだけ自分の興味が無い事も学ぶことで将来的に得をすることも多いレッスンだと思いますので、積極的に自分から「多ジャンル」へ興味を持ちましょう。				
使用教科書	学内オリジナル教材「Guitar course BasicI」PDF、担当講師が作成した教材を使用				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンブル1-A(前期)	授業形態/必-選	実習	必修
		アンサンブル I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験14年 自身の活動として楽曲配信やアルバムを発売、Youtubeにおいてはレッスン動画や業界の知識を配信等、積極的に活動。またエンジニアとしても活動しておりミックスやマスタリング、そして作曲等も全て自主でこなし、楽曲提供や数々の著名なヴォーカリストと共演。				
授業概要					
コミュニケーションを第一に既成曲を題材に、互いに周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバル=ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。					
到達目標					
合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～16回目	<p>アンサンブルとは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 各パートのセッティング方法 読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。 <p>課題曲①～④</p> <ul style="list-style-type: none"> 既成楽曲(課題曲①メディアムテンポ8ビート→課題曲②アップテンポ8ビート→課題曲③メディアムテンポ16ビート→課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない、雰囲気重視の曲)を4週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 アレンジ(キヌやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など)の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカヴァーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を作成。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い、譜面に反映させる。 聞き手を意識したトータルプロデュース。 <p>アンサンブルフェスティバルへ向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。 スムーズな転換の手順を確認。 音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。 ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気に関わる。
【前期】 17～19回目	<p>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成</p> <ul style="list-style-type: none"> セット図の書き方を学び、作成する。 アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 本番を想定した演奏動画の撮影を行う。
【前期】 20～22回目 (前期試験)	<p>半期のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。
【後期】 23～37回目	<p>アンサンブルとは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 各パートのセッティング方法 読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。 <p>課題曲①～④</p> <ul style="list-style-type: none"> 既成楽曲(課題曲①メディアムテンポ8ビート→課題曲②アップテンポ8ビート→課題曲③メディアムテンポ16ビート→課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない、雰囲気重視の曲)を4～6週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 アレンジ(キヌやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など)の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカヴァーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を作成。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い、譜面に反映させる。 聞き手を意識したトータルプロデュース。 <p>アンサンブルフェスティバルへ向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。 スムーズな転換の手順を確認。 音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。 ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気に関わる。
【後期】 36～38回目	<p>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成</p> <ul style="list-style-type: none"> セット図の書き方を学び、作成する。 アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 本番を想定した演奏動画の撮影を行う。
【後期】 39～40回目 (後期試験)	<p>半期のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	楽器やシールド・チューナー・エフェクターは自身の物を持ち込みましょう！※外部では持ち込みが常識です。1クール間(課題曲が切り替わるまで)はレンタル可。コミュニケーションが音楽業界では第一、その大事さと、現代における人との関わり方や他人への興味を養う。講師に頼るばかりではなく、学生間で情報を伝達するなどアンサンブルメンバーの一人としての自覚と責任を持ちましょう。今後の人生を豊かにする為にも他者との関わりを積極的に持ち、前向きな姿勢で取り組んでください。生音の体感やアンサンブルの仕組みを知る事で創作や演奏の幅も広がります。他の授業で学んだ事を実践できる場ですので、楽しみながら皆で盛り上げていきましょう！
使用教科書	学校内作成のマスター譜や譜面

【後期】
37～40回目

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンプルI-A(後期)		授業形態/必・選	実習	必修
	アンサンプルフォロー			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	<p>実務経験17年 2006年にTV番組テーマ曲でメジャーデビュー。国外、国内の多くの有名アーティストと共演。2020年ドラマ挿入歌など多くのタイアップ曲を集めたソロアルバムをリリース。現在は様々な媒体で活動すると共に、自身の経験を活かした育成指導を行っている。</p>					
授業概要						
<p>「アンサンプルI」を受講する歌手の待機学生を対象とし、課題曲をバンドで歌える状態まで仕上げる。 バンドで歌う際に必要な要素やコーラスワークを学ぶ。 楽器系と音を合わせる為の基盤作り及び合奏を想定したスキルアップ。</p>						
到達目標						
<p>バンドで歌う為に必要な事を理解し、最低限の準備が当たり前になるようになる。 迅速に曲を覚えて楽曲毎のポイントを抑え、バンドの中で歌えるようになる。</p>						
授業計画・内容						
【前期】 1～19回目	<p>「アンサンプルI」課題曲①～④の仕込み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞にリハーサルマークやイントロ・アウトロ・間奏の小節数(アレンジの進捗次第で都度修正)コードなどの情報を書き込み、譜面と紐つける。 ・ウォーミングアップ、声の立ち上げ ・課題曲のメロディー(音程・リズム)の確認 ・パフォーマンスに直結するリズムの取り方を練習し、定着させる。 ・原曲に用いられているテクニックの確認 ・楽曲や個々の素質と技量に適した発声の確認。 ・コーラスラインを確認し、同じ課題曲に取り組む者同士でメインメロディーとコーラス(ユニゾン、上ハモ、下ハモ、ウーワー、追っかけ、ガヤなど)を合唱。各回でパートを交代して歌う。 ・歌う箇所の振り分け(例:1コーラス目とラストサビの前半メイン担当 など)やコーラスの担当パートを確定。 ・歌詞や譜面を見ずに歌う練習 <p>アンサンプルフェスティバルの事前資料作成をフォロー</p>					
【前期】 20～22回目	<p>半期のまとめ 「前期試験」</p>					
【後期】 23～39回目	<p>「アンサンプルI」課題曲⑤～⑧の仕込み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞にリハーサルマークやイントロ・アウトロ・間奏の小節数(アレンジの進捗次第で都度修正)コードなどの情報を書き込み、譜面と紐つける。 ・ウォーミングアップ、声の立ち上げ ・課題曲のメロディー(音程・リズム)の確認 ・パフォーマンスに直結するリズムの取り方を練習し、定着させる。 ・原曲に用いられているテクニックの確認 ・楽曲や個々の素質と技量に適した発声の確認。 ・コーラスラインを確認し、同じ課題曲に取り組む者同士でメインメロディーとコーラス(ユニゾン、上ハモ、下ハモ、ウーワー、追っかけ、ガヤなど)を合唱。各回でパートを交代して歌う。 ・歌う箇所の振り分け(例:1コーラス目とラストサビの前半メイン担当 など)やコーラスの担当パートを確定。 ・歌詞や譜面を見ずに歌う練習 <p>アンサンプルフェスティバルの事前資料作成をフォロー</p>					
【後期】 40回目	<p>半期のまとめ 「後期試験」</p>					
評価方法	<p>学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)</p>					
学生へのメッセージ	<p>「アンサンプルI」授業では歌唱指導をメインに行いません(合わせる事に注力する)ので、課題曲の歌唱における技術的な事は「アンサンプルフォロー」内で質問や反復練習をし、解決してください。</p>					
使用教科書	<p>無し</p>					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択DAWI(前期/後期)	授業形態/必・選	講義	必修
	DAWI		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース・ギターヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 また、アイドルや声優の楽曲やCMのサウンドロゴの作編曲。MIX MASTERINGまで自身で行い、ライブではマネージャーとしての活動もしている。 ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。				
授業概要					
DAW(mac&Logic)でのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。					
到達目標					
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるようになる)知識、実践方法を学ぶ。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	PCの操作方法の指導、Logic Pro Xの操作方法の指導 ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法 ・簡単なループを組み合わせた制作法を学ぶ				
【前期】 6～10回目	各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導 ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解				
【前期】 11～20回目	ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解 ・各楽器を理解し、4小節(16小節+α)の課題曲の作成				
【前期】 21回目～22回目 (前期試験)	「前期試験対策」 ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習				
【後期】 23回目～37回目	各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成 ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ				
【後期】 38回目	ツーミックスのバウンス作業 ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)				
【後期】 39回目～40回目 (後期試験)	「後期試験対策」 ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	今や楽器を持つ人(ヴォーカル含む)に必要な現代音楽の作成ツールであるDAWを知ること、使うことはとても重要です。バンドだけ…演奏だけ…ではなく、「創る楽しみ」も同時に学び、今後の時代の発展に合わせた作曲やサウンドデザインを心がけ、オリジナリティあふれる作品を創ってください。				
【後期】 37～40回目	各講師オリジナルの教材の使用				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ヴォーカル実技 I-B	授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォーカルテクニック I		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験22年 '84年バンドデビュー、'94年ソロデビュー、'03年ユニットデビューと並行して、2002年よりボイストレーナーの仕事始める。現在もバンド、ユニット、ソロ、の3形態でアーティスト活動中。				
授業概要					
歌詞やオケ(楽器)の演奏に対して必要な様々なテクニックを理解、習得し表現力を高め、伝える歌、感動を与える歌を創る。					
到達目標					
歌詞の世界観に相応しい表現を織り込み、「伝わる歌」を歌えることを目指し、技術の高い歌をどのタイプの曲でも歌えるようになることを目標とする。					
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	「自由曲中でのアタック、アクセントの習得」 ・口の開きや動きの強弱と腹圧の関係 ・母音「子音」母音の流れに対する発音との関係 ・オケのリズムアプローチとの関係				
【前期】 5～8回目	「自由曲中でのアップバンド、ダウンバンドの習得」 ・基本的なスケルトントレーニング ・フレーズを抽出、その中での実践 ・1コーラスでの実践				
【前期】 9～12回目	「自由曲中でのヴィブラートの習得」 ・基本的なメソッドの修練 ・ハミングでの歌唱 ・フレーズでの実践				
【前期】 13～16回目	「自由曲中でのエッジ、ウイスパーヴォイスの習得」 ・基本的なメソッドの反復 ・1フレーズを抽出、実践 ・1コーラスでの実践				
【前期】 17～21回目	「自由曲中でのダイナミクス、クレッシェンドの習得」 ・共鳴の確認、副鼻腔・口腔・咽頭のバランスの確認 ・各共鳴腔の増減のコントロール ・フレーズ、1コーラスでの実践				
【前期】 22回目	前期試験				
【後期】 23～26回目	「自由曲中でのファルセットの習得」 ・共鳴の副鼻腔・口腔内のバランスの確認 ・息の量の増減、そのコントロール ・ナチュラルヴォイス→ファルセット→ナチュラルヴォイスの切り替え				
【後期】 27～30回目	「自由曲中でのプレスアピール、プレスカットの習得」 ・基本的なメソッドの反復、腹式呼吸との関連性 ・1フレーズの抽出、反復 ・1コーラス内での実践				
【後期】 31～34回目	「自由曲中でのヒーカップ、フォールの習得」 ・基本的なメソッドの反復、ナチュラル→ファルセットの切り替え、音程の幅広い上げ下げ ・1フレーズ内での実践、テンポキープの確認 ・1コーラスでの実践、入れる場所を選ぶセンスのチェック				
【後期】 35～38回目	「総合①」学んだこと全ての確認、復習、修正				
【後期】 39回目	後期試験				
【後期】 40回目	「総合②」上の「総合①」学んだこと全ての確認、復習、修正の継続				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
【後期】 37～40回目	伝える歌に必要な“テクニック”というカテゴリーを自分の歌の中で軽視しないこと。特にバラードタイプの曲を歌う時に平坦にならない、グルーブと説得力ある歌にすることを心がけること。				
使用教科書	全コース共通の教科書を使用				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ステージ・パフォーマンス	授業形態/必・選	講義	必修
	ギターヴォーカル総合I		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ギターヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験16年 自身のバンドでギターヴォーカルと作詞作曲を担当。日本大学芸術学部演劇学科卒業後、ジャンルを問わずライブやディナーショーのサポート、レコーディング、MV出演などで活動。 海外ツアーの経験も多く、アメリカのロサンゼルスで1年半活動。 役者としてのキャリアもあり、曲の表現方法やステージでのあり方も指導する。				
授業概要					
ギターヴォーカルとして必要な基礎知識、アンプ・エフェクターなどの機材の使い方や音作りを学ぶ。					
到達目標					
・曲に合わせた音作りができるようになる ・ライブに必要な知識を身に付ける					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	・ギターのパーツの説明。 ・自分に合ったマイク、弦、ピックの選び方。 ・基本的なアンプ、エフェクターでの音作り。				
【前期】 6～10回目	・ライブを行う上でのモニターの聴き方、セッティング図、セッテリストの書き方などの基礎知識。 ・ギタボギグに向けた課題曲の音作り、リハーサル。				
【前期】 11～15回目	・基本的なギターのメンテナンス方法。・アンサンブルフェスティバルに向けた課題曲の音作り。				
【前期】 16～19回目	・前期の復習。 ・前期試験に向けての課題。				
【前期】 20回目	・前期試験				
【後期】 21～25回目	・曲の表現方法、基本的なステージング。 ・ギタボギグに向けた課題曲の音作り、リハーサル。				
【後期】 26～30回目	・PA卓の使い方。 ・ベース、ドラム、キーボードなど、他の楽器の知識を深める。				
【後期】 31～35回目	・アンサンブルフェスティバル、歌系イベントに向けた課題曲の音作り、リハーサル。				
【後期】 36回目	・後期の復習。 ・後期試験に向けての課題。				
【後期】 37回目	・後期試験				
【後期】 38～39回目	・ミュージシャンに必要なパソコンのスペック解説 ・自宅でのレコーディング方法など				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	ライブを行う上で、ギターヴォーカルとしての基礎を共に学びましょう				
使用教科書	授業ごとに、担当講師が作成した教材を使用				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択ヴォーカルⅠ(前期/後期)		授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォーカルクリエイティブⅠ			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験22年 '84年バンドデビュー、'94年ソロデビュー、'03年ユニットデビューと並行して、2002年よりボイストレーナーの仕事始める。現在もバンド、ユニット、ソロ、の3形態でアーティスト活動中					
授業概要						
自由に課題曲を選び、発声、テクニック、ステージングなど全ての面で、その曲を仕上げていく。個々の声、キャラクターを活かし、“この歌詞、メロディーを伝える為に、自分だったらどう歌うか”を追求する。						
到達目標						
ヴォーカリストに必要な“自分のスタイル”を見付け、その特性を伸ばし、より確実なものに仕上げて「Only One」の歌を歌えるようになること、それをライブやオーディションに繋げることを目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～2回目	歌いたい曲を選ばせて歌唱させ、声質、音域、現時点で身につけている技術の提示、好きなジャンルやアーティスト、好みの服装のチェックなどを行い、本人の良いところを提示し、それを活かした歌唱法、ジャンル選びを考えさせる					
【前期】 3～6回目	発声面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導(特に共鳴・腹式に関して) ※以下、各ポイントの指導期間の短縮及び曲数の増加は、各講師の判断で行うものとする					
【前期】 7～10回目	発声面、技術面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (主にベンド、ヴィブラート、エッジに関して)					
【前期】 11～14回目	発声面、技術面、ステージング面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (主に顔の表情、手の動き、ポージングの設定と変化に関して)					
【前期】 15～19回目	フルコーラスの仕上げ(歌詞の内容、オケのニュアンス、リズム等と関連付けて)					
【前期】 20回目	前期試験					
【後期】 21～24回目	二曲目を選ばせ、発声面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (特に共鳴、腹式に関して+支え、滑舌)					
【後期】 25～28回目	発声面、技術面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (特にベンド、ヴィブラート、エッジ+プレスアビール、アクセントなど)					
【後期】 29～32回目	発声面、技術面、ステージング面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導					
【後期】 33～37回目	フルコーラスの仕上げ(歌詞の内容、オケのニュアンス、リズム等と関連付けて)					
【後期】 38回目	後期試験					
【後期】 39～40回目	総復習、アーティスト性の絞り込み					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
【後期】 37～40回目	個性を残したまま自分が歌いたい曲を「歌える曲」にすること。歌えていない曲をただ歌いたいから歌う、ではない形に仕上げることは、ヴォーカリストとして評価を上げる為には大切です。「自分にしか歌えない、自分だから歌える歌」をてに入れましょう。					
使用教科書	全コース共通の教科書を使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	分野別講座		授業形態 / 必・選	講義	必修
	分野別講座			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	5単位	
科目設置学科コース	音楽アーティスト科、芸能タレント科 全コース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経歴25年 高校時代よりバンド活動を行う。専門学校にて学んだ後、1998年レコーディングスタジオに就職し、数々のアーティストの音楽制作業務に携わる。					
授業概要						
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。						
到達目標						
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。						

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	・発声の基礎知識 歌唱、台詞(滑舌)
【前期】 3～8回目	・楽器の基礎知識 ギター、ベース、ドラム、キーボード、管楽器、ピアノ
【前期】 9～15回目	・音楽活動における基礎知識 譜面の読み方・書き方、リハーサルスタジオの使い方、楽器メンテナンスの方法
【前期】 16～19回目	・イベントの基礎知識① PA、照明、レコーディングの基礎知識。 イベント資料の作成方法。
【後期】 20～23回目	・イベントの基礎知識② ライブ、レコーディングの進行方法
【後期】 24～28回目	・音の基礎知識 電源、マイクの原理、音の仕組み、デジタル変換
【後期】 29～32回目	・パソコンの基礎知識 スペック、オーディオ、ピクチャ、ムービーについて
【後期】 33～38回目	・卒業後の進路に向けて デビュー、就職
評価方法	レポート提出状況・内容によって評価
【後期】 37～40回目	今の時代、ある程度の事は自分一人で出来るスキルが求められます。「興味が無い、関係ない」で終わらせず、自分自身の為に学ぶという意識を持って取り組んでください。
使用教科書	習得する内容に合わせて、随時テキストデータをPDF形式で配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	アーティスト実地演習 I	授業形態 / 必・選	演習	必修
	アーティスト実地演習 I		年次	1年次	
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	7回(28単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				
授業概要					
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。					
到達目標					
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。					

授業計画・内容	
1回目～5回目	ESP学園主催イベント①～⑤
6回目	コースイベント
7回目	コンテストファイナル
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布

【後期】
37～40回目

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボード I (前期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボード I (前期)		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
キーボードの初歩的な演奏方法と、音楽理論を習得する。					
到達目標					
コード演奏およびアルペジオでの演奏を習得したうえで、左右とも違う運指可能となる。					

授業計画・内容	
1～2回目	スケール練習とともにKeyの基礎知識を確認する。 ダイアトニックコードについての説明。それを課題曲に活かしていく。
3～4回目	スケール練習を続けていく。さまざまなテンポ、リズムで弾いてみる。 コードの転回形を学ぶ。講師が書いたコード進行を見て、転回形を考えて弾く練習。
5～8回目	右手でコードを押さえ、左手でリズムパターンのはっきりしたベースを弾く練習。 学生同士で左右の役割を分けて、アンサンブルのように練習してみる。
9～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13～16回目	印象的なイントロのついている曲を課題とする。 ピアノらしいイントロの練習。コードをアルペジオにして演奏してみる。
17～20回目	アルペジオで弾くことで、指の動きの練習に結びつける。 一人で左右とも違う動きができるように練習する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
【後期】 37～40回目	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボード I (後期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボード I (後期)		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
キーボードの初歩的な演奏方法と、音楽理論を習得する。					
到達目標					
コード演奏およびアルペジオでの演奏を習得したうえで、左右とも違う運指可能となる。					

授業計画・内容	
1～2回目	キーボードの機能について学ぶ。スケール練習を中心に練習。 ダイアトニックコードについて知り、それを課題曲演奏に活かす。
3～4回目	スケール練習の継続、リズムやテンポを変えた練習。 コードの転回形を学ぶ。
5～8回目	リズムパターンのはっきりしたベースラインを演奏する。 あわせて右手でコード演奏を行い、形にする。
9～12回目	課題曲をもとに反復練習、必要に応じて講師による講評
13～16回目	ピアノの特性を活かしたイントロ演奏。コードをアルペジオに変えた演奏。
17～20回目	アルペジオ演奏を通じて、運指のトレーニング。 一人で左右とも異なった動きができるよう反復練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
【後期】 37～40回目	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。